
2013年2月期

◆————◆
イオン株式会社 決算説明

2013年2月期 連結業績概要

営業収益、経常利益、当期利益は過去最高を更新

(単位: 億円)	2012年2月期	2013年2月期	前期比・差	前々期比・差
営業収益	52,233億円	56,853 億円	108.8%	111.2%
営業利益	1,986億円	1,909 億円	▲76億円	+156億円
経常利益	2,122億円	2,129 億円	+6億円	+308億円
当期純利益	667億円	746 億円	+79億円	+150億円

事業セグメント別の状況



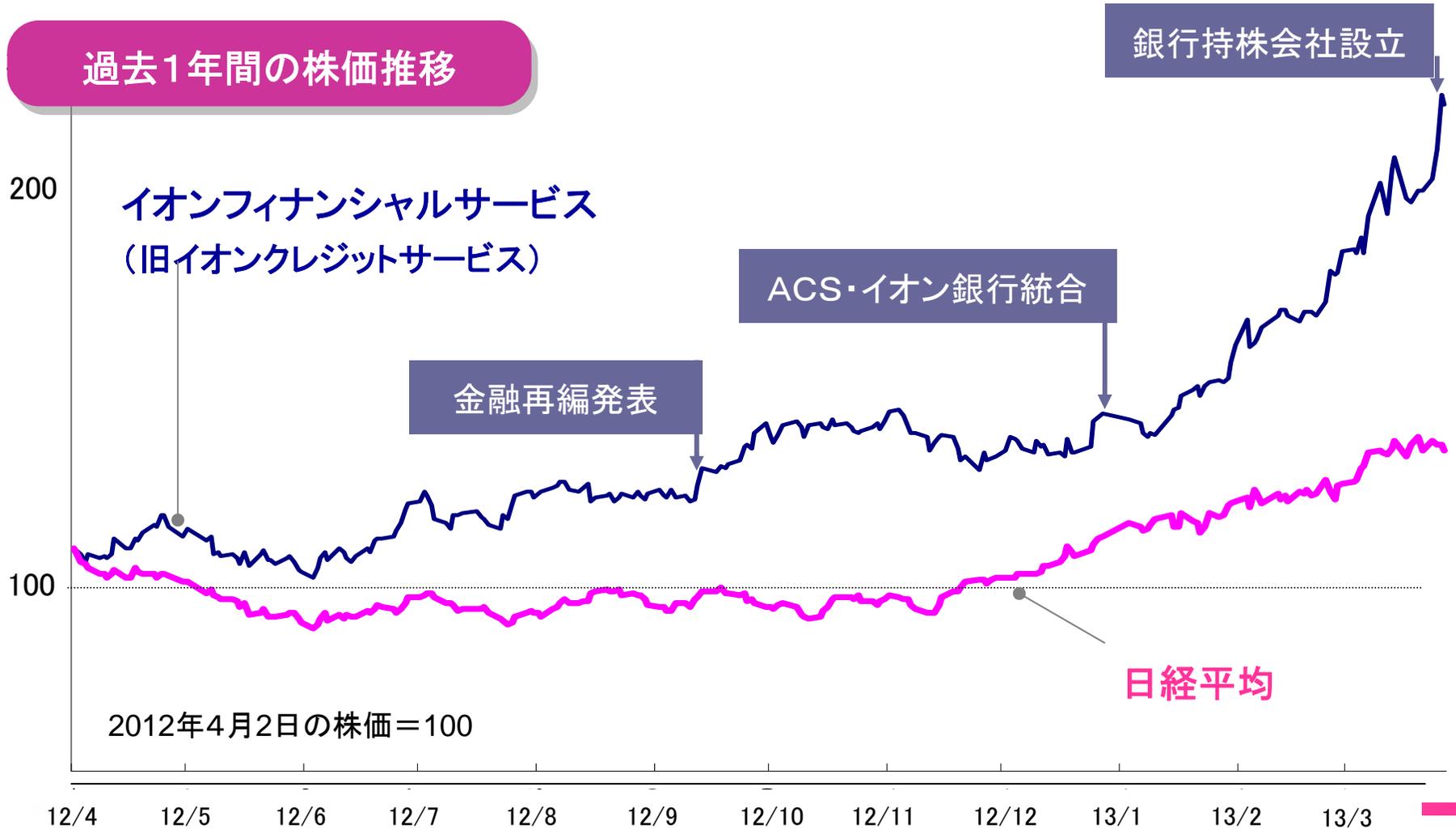
(単位: 億円)	営業収益		営業利益	
	2013/2	12/2比	2013/2	12/2増減
GMS事業	26,643	101.9%	464	▲92
SM事業	14,807	121.1%	218	+0
戦略的小型店事業	2,418	113.4%	40	▲24
総合金融事業	1,942	115.9%	338	+118
ディベロッパー事業	2,032	118.5%	429	+20
サービス事業	3,436	109.9%	197	+5
専門店事業	3,502	110.0%	61	+1
アセアン事業	1,032	118.6%	66	▲2
中国事業	1,129	110.0%	▲18	▲46
連結合計	56,853	108.8%	1,909	▲76

- ・ 全てのセグメントで増収を確保
- ・ 改革の成果により、金融、DV事業は大幅増益を達成
- ・ GMS事業は利益面では苦戦
- ・ 海外事業は成長投資の影響により減益

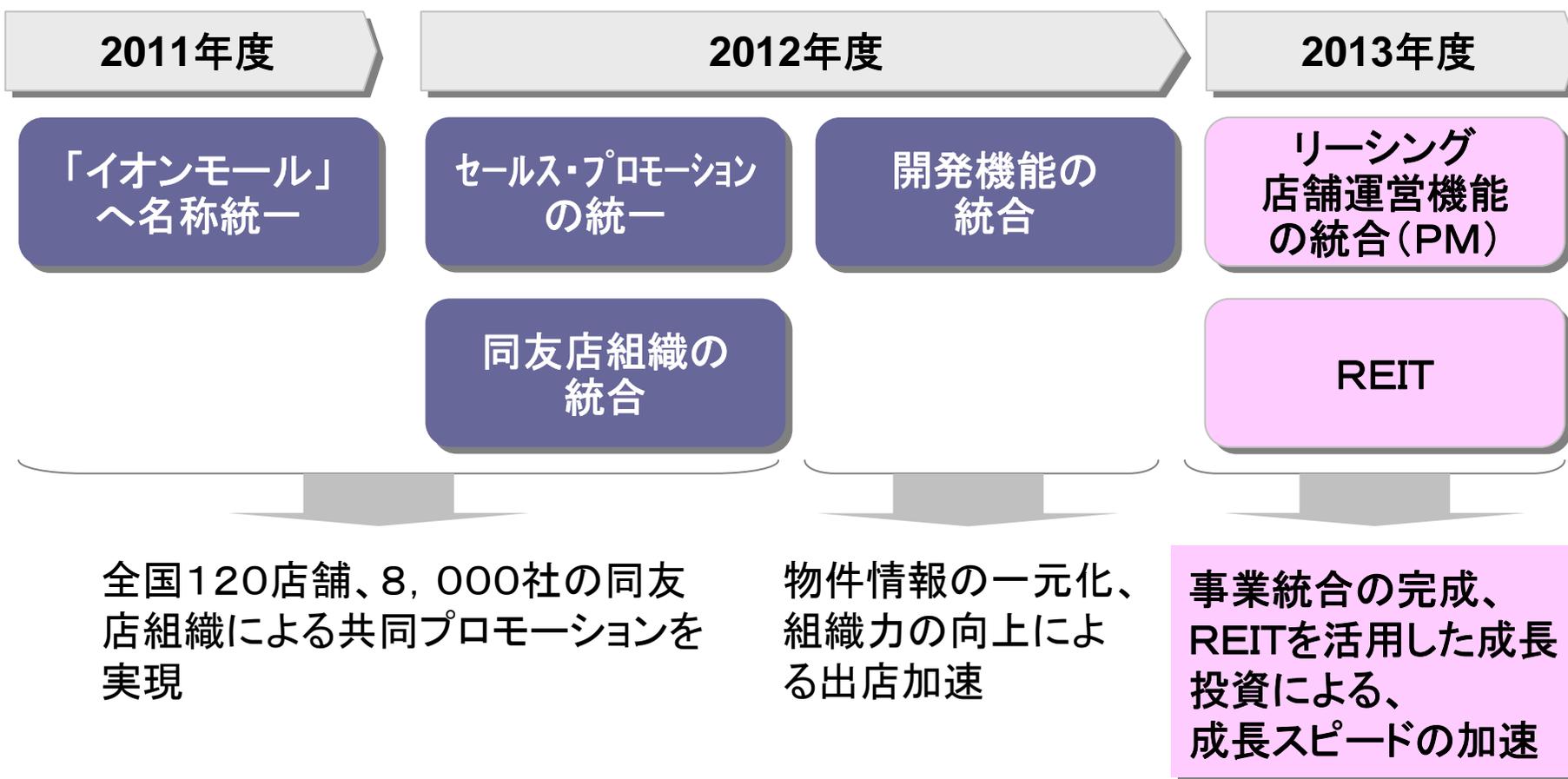
グループ構造改革の進捗

総合金融事業を統合 4月1日にイオンフィナンシャルサービスを設立

過去1年間の株価推移



2013年度にDV事業統合が完成 REIT活用も可能になり成長スピードが加速

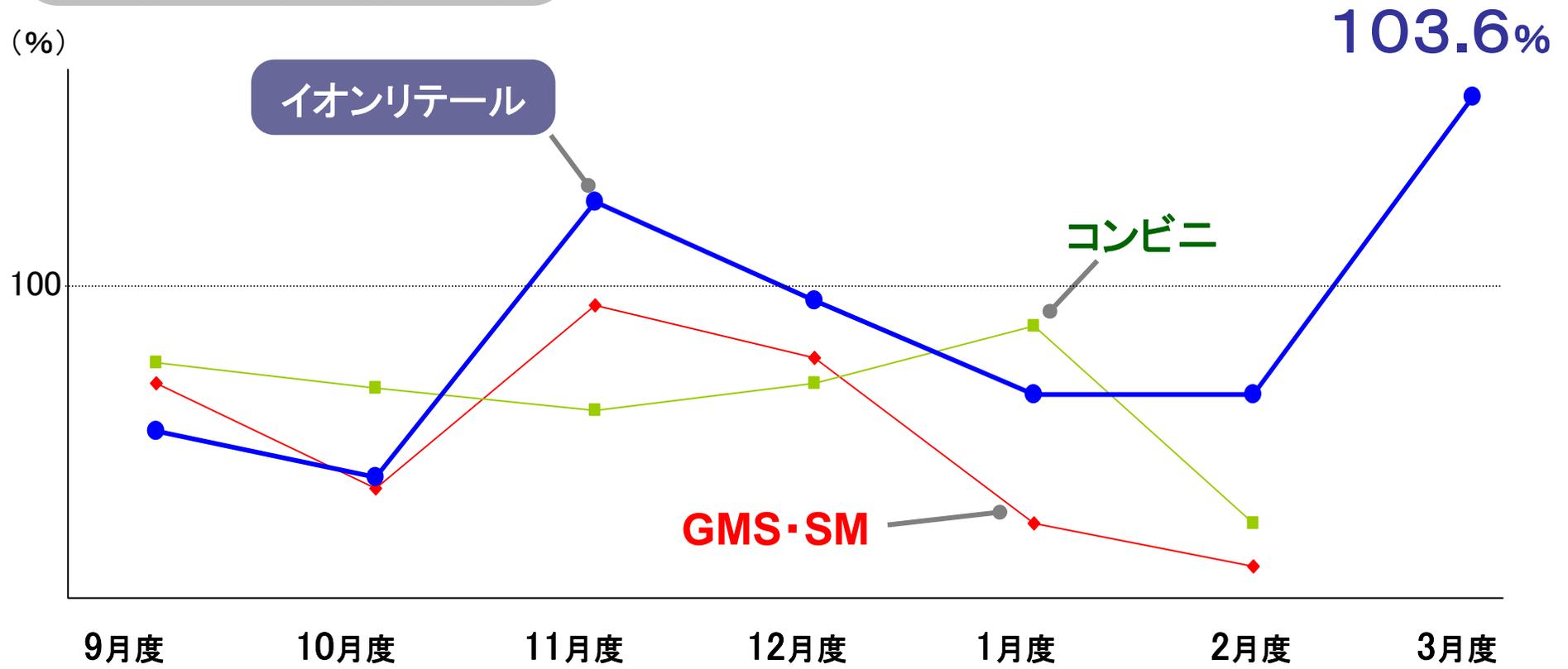


GMS改革（業界トレンドとの比較）



イオンリテールは業界平均を上回る水準を維持
GMS事業全体では第4四半期に増益へ転換

【業態別】 売上既存比



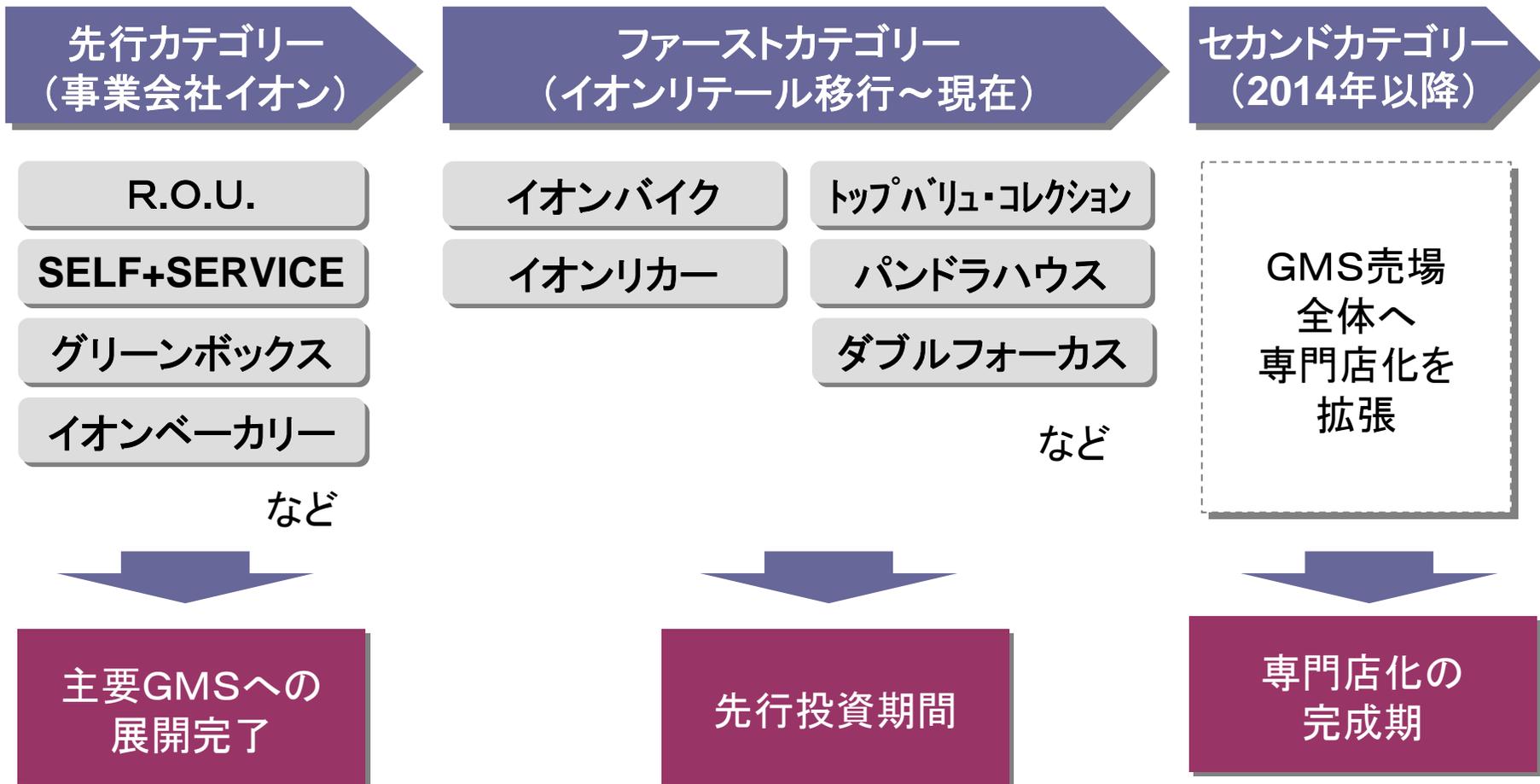
出所: 日本チェーンストア協会、日本フランチャイズチェーン協会

専門店化された売場への変革が GMS成長の鍵

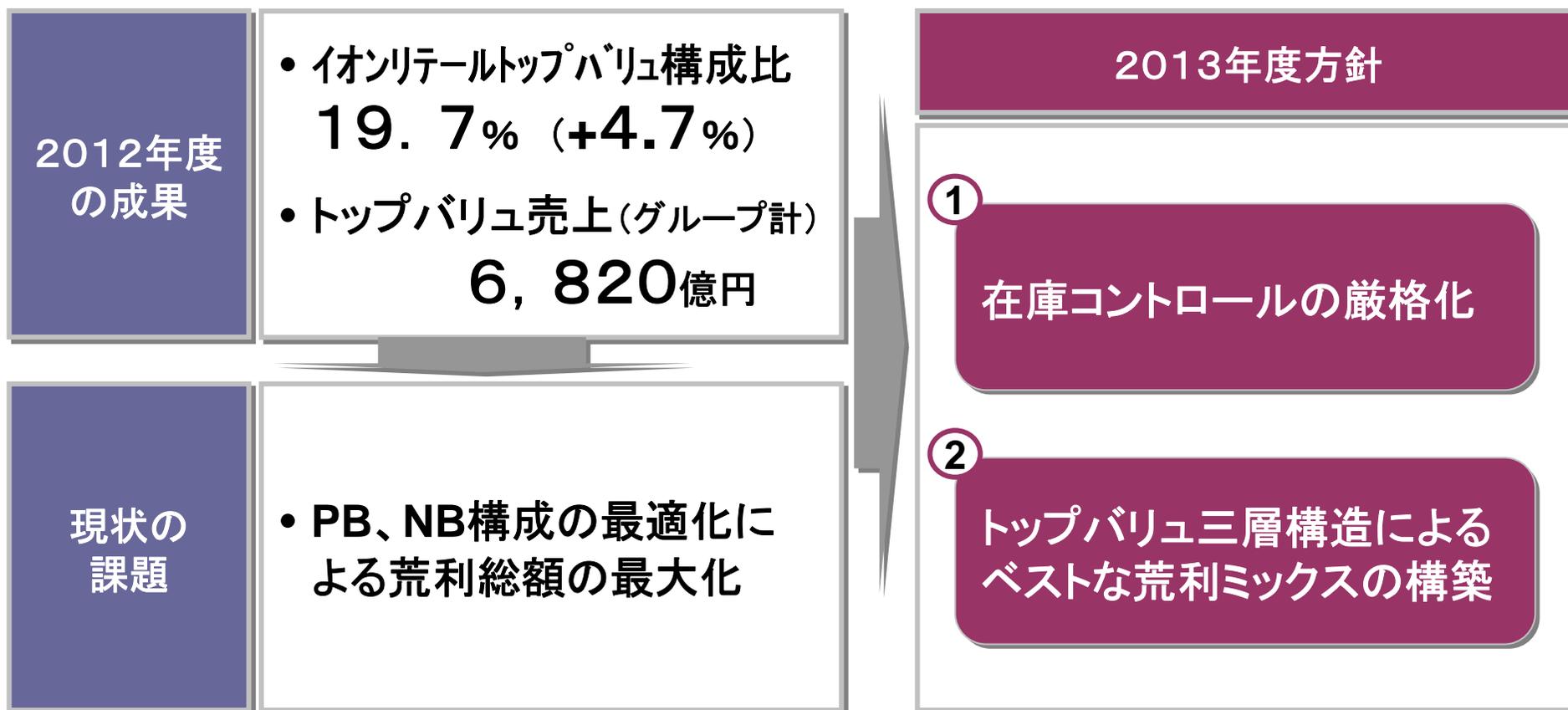
過去10年間の売上推移

	2002年度	2011年度	成長率
主要GMS合計	6.6兆円	→ 5.9兆円	89%
イオンリテール	1.7兆円	→ 2.0兆円	119%
主要専門店合計 (主要5社)	0.9兆円	→ 2.0兆円	222%

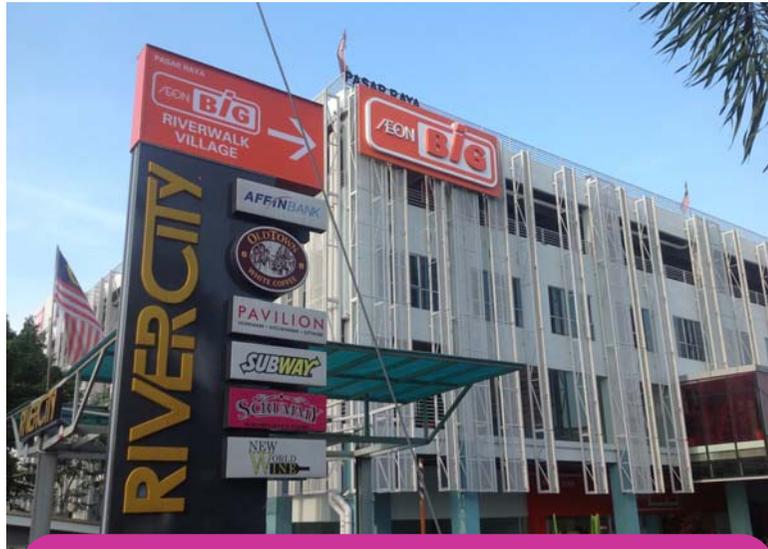
GMSは専門店化の集合体へと進化



在庫コントロール厳格化、トップバリュ三層構造完成による 荒利総額の最大化



中期経営計画(4シフト)の進捗



イオンビッグ リバーウォークヴィレッジ店

M&A

- 2012年10月
カルフルマレーシアを買収
(イオンビッグマレーシアへ商号変更)
- 業界2位の総合小売業へ成長

新規出店

- GMS 9店舗、SM 4店舗、
小型店舗 29店舗を出店
- 新店・M&Aにより+68店舗増、
合計164店舗へと成長

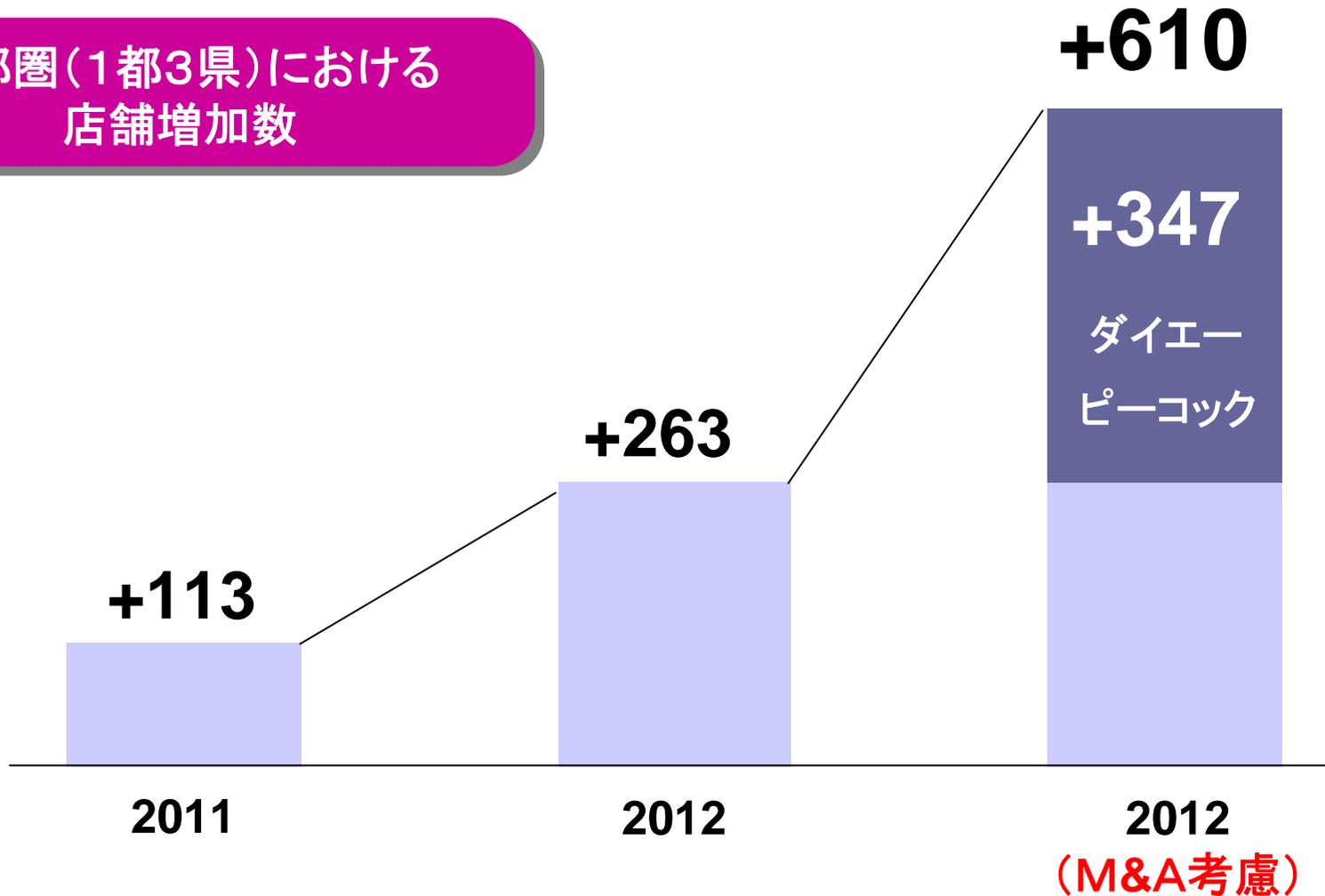


青島イオン 百麗広場(マリーナシティ)店



インドネシア1号店
(イメージ図)

首都圏(1都3県)における
店舗増加数



店舗数

1,767店舗

2,030店舗

2,377店舗

シニア型店舗の 確立

- モデル店舗であるイオン船橋の新規出店
 - 既存店におけるシニア対応
休憩スペース拡大、見やすい文字表記、7時開店
-

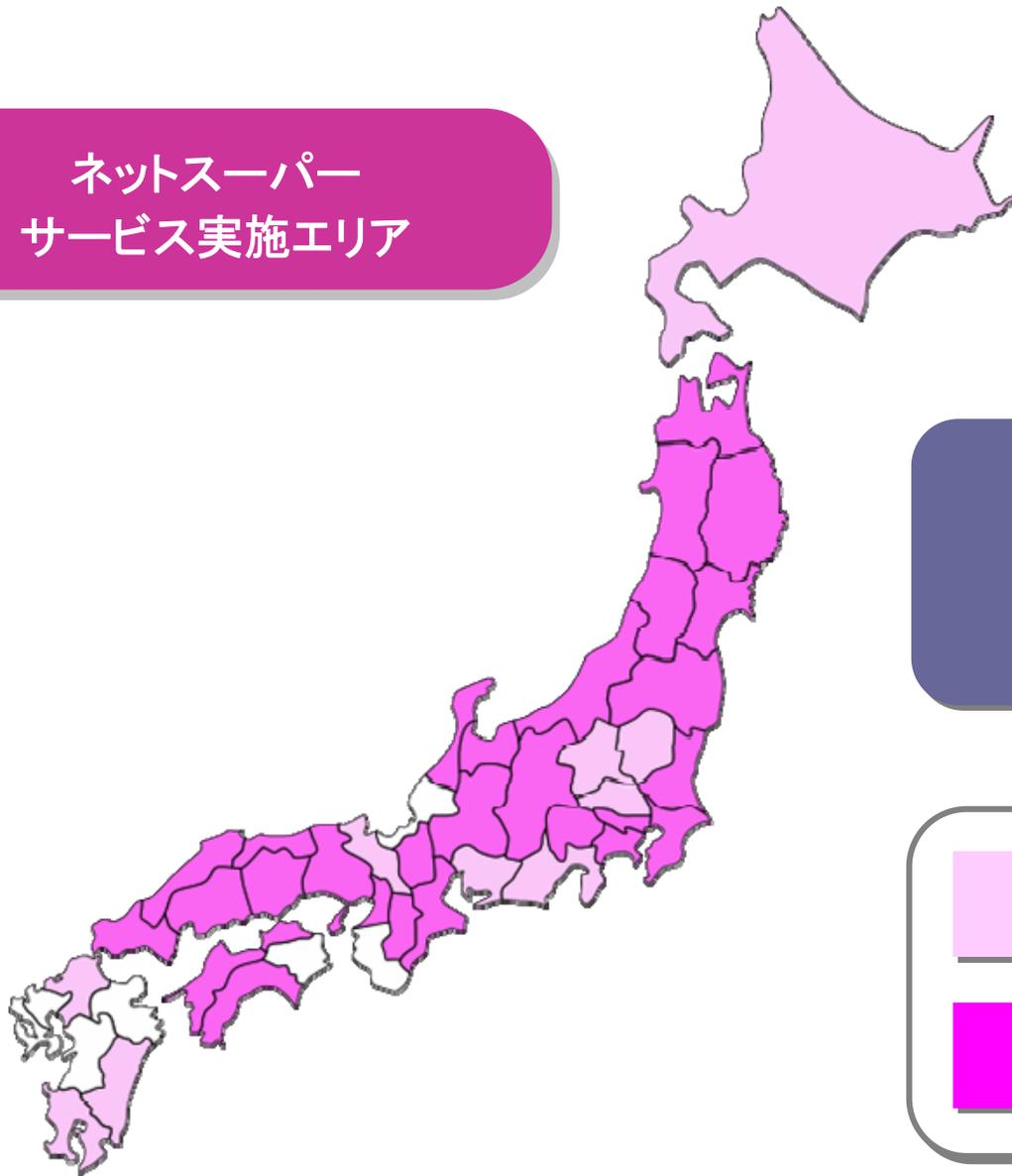
商品開発

- 小分けパッケージ、レディーミールの充実
 - オリジンのノウハウを活用した和惣菜の強化
-

組織化

- G.G.イオンカード、G.G.WAON発行
- シニア会員は**843**万人に拡大

ネットスーパー
サービス実施エリア



全県配送サービスは
全国29都道府県へ拡大

店舗配送型ネットスーパー

全県配送サービス

新規連結企業の状況



11年12月より連結

マルナカ

- トップバリュ、WAONの導入、グループ共通キャンペーンへの参画など、イオンの強みを活用
- 12年度はマルナカ・山陽マルナカ合計で営業利益69億円、公表予算50億円を達成

12年11月より連結

イオンビッグマレーシア
(旧カルフル)

- イオンマレーシアの生鮮導入、プロモーション強化、活性化投資の再開、イオンの教育プログラムの導入
- 2月度より、売上が前年比増加傾向へ好転

13年1月より持分法適用

イオンエブリ
(旧テスコ)

- トップバリュは導入済み
- 今後、イオンの生鮮・デリカ、WAON、システムなどを導入し、シナジーの具現化を図る

2014年2月期 業績見通し

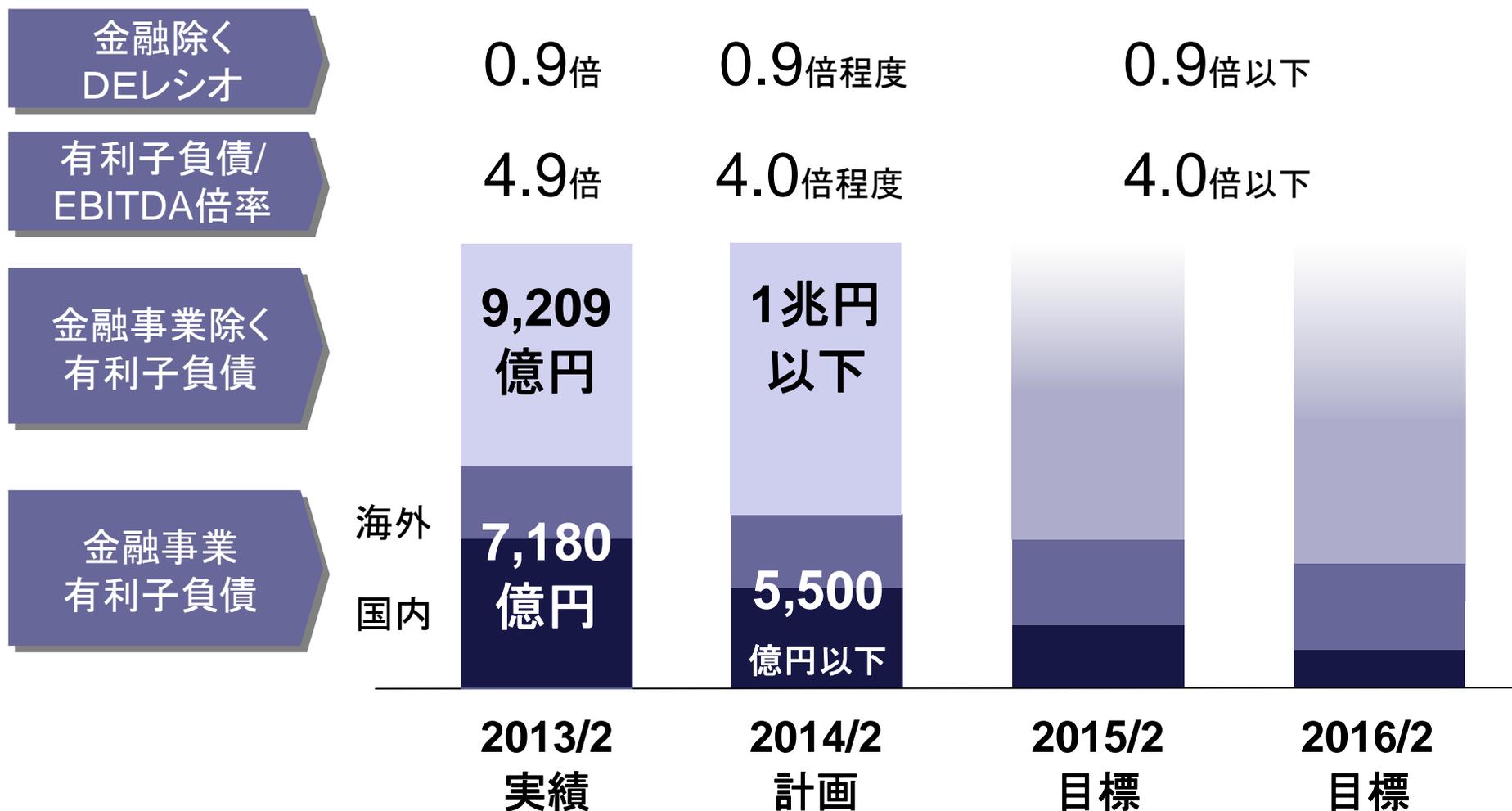
全ての項目において過去最高を目指す
営業収益6兆円、営業利益2,000億円超へ

(単位:億円)	2013/2 実績	2014/2 業績予想	前期比・差
営業収益	56,853億円	60,000億円	105.5%
営業利益	1,909億円	2,000~2,100 億円	+90~190億円
経常利益	2,129億円	2,150~2,250 億円	+20~120億円
当期純利益	746億円	750億円	+3億円

連結有利子負債見通し



金融除くDEレシオを0.9倍以下でコントロール



財務バランスを保ちつつ成長投資を継続

	2012/2 実績	2013/2 実績	2014/2 計画
ROIC	5.4%	4.6%	5.0%以上
ROE	7.3%	7.6%	7.0%以上
金融除くDELシオ (金融含むDER)	0.9倍 (1.4倍)	0.9倍 (1.6倍)	0.9倍程度 (1.4倍以下)
(簡易)営業 キャッシュフロー(注)	2,652億円	2,743億円	2,800 億円
連結投資額	3,621億円	3,783億円	4,000 億円
金融除く 連結有利子負債	8,121億円	9,209億円	1兆円 以下

注:簡易営業キャッシュフロー:営業利益+減価償却費-支払法人税等

中間、期末各13円とし、年間26円へ増配

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
2012年2月期	-	23円	23円
2013年2月期	12円	12円	24円
2014年2月期 (予想)	13円	13円	26円

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。